静岡県漁業協同組合連合会
№1106 静岡市追手町 9-18
16.8.20☎ 054-254-6011
編集・発行＝指導部漁政課

１．平成15年静岡県の水産加工品生産量(概数)　15万2千ﾄﾝで前年並み

関東農政局静岡統計・情報センターでは、このほど平成15年の水産加工品生産量を発表しました。それによると全国の水産加工品は367万5千ﾄﾝで、前年に比べ13万5千ﾄﾝ(4%)増加しました。これは、冷凍水産物(イワシ類、サバ類、サケ・マス類)生産量が、漁獲量の増加にともない増加したことによります。また、静岡県の水産加工品生産量は15万1,944ﾄﾝ(前年15万2,194ﾄﾝ)で、ほぼ前年並みの生産量で、全国で5位となりました。

県内の水産加工品種類別生産量は、練り製品が3万5,900トン(前年比4%、1,344ﾄﾝ減)、冷凍食品が3万900ﾄﾝ(同10%、2,769ﾄﾝ増)、塩干品が2万7,700ﾄﾝ(同3%、742ﾄﾝ減)、冷凍水産物が5,200ﾄﾝ(同19%、842ﾄﾝ増)などとなりました。

また、水産加工品で全国シェア1位となった加工品は、練り製品のなると、はんぺんなどのゆでかまぼこ(9,440ﾄﾝ)、カツオたたきなどの冷凍食品魚介類 (12,536ﾄﾝ)、塩干品の干しアジ(24,403ﾄﾝ)、節製品のカツオなまり節(2,765ﾄﾝ)、サバ節(7,168ﾄﾝ)でした。

２．船舶海難の特徴を公表　年平均2,524隻の海難発生

海上保安庁ではこのほど、同庁が取り扱った船舶海難データの分析により、近年の船舶海難の特徴とそれに基づく今後の海難防止施策をまとめました。

それによると過去10年間の船舶海難の年平均発生数は2,524隻ですが、平成12年以降は毎年約2,700隻台とやや高めに推移しています。このうち用途別では漁船が36%と最も多く、次いでプレジャーボートの29%ですが、漁船海難が横ばいなのに対し、平成10年ごろからプレジャーボートによる海難が増加傾向にあり、12年以降は漁船とほぼ同レベルとなっています。海難の種類では衝突が最も多く、次いで乗揚げ14%、その他12%で、衝突海難はやや減少傾向となっています。また、海難発生原因は見張り不十分が28%で最も多く、次いで不可抗力15%、操船不適切13%の順となりました。過去10年間における死亡・行方不明者を伴う船舶海難の平均隻数は103隻、これに伴う死亡・行方不明者数の年平均数は169人で、ここ数年はそれぞれ70～80隻、150～160人台で推移しています。

同庁では、近年の船舶海難では漁船とプレジャーボートが圧倒的に多いことから、これらに重点をおいた海難防止対策を講じる必要性があると指摘しています。

今後の海難防止施策としては、関係行政機関、漁協、関係団体等との連携による海難防止指導の推進、気象海象等の海の安全情報を分りやすくリアルタイムで提供する沿岸域情報提供システム(MICS)の整備を進めるとともに、体験キャンペーンによる利用促進、及び海域特性に応じた海難防止策の策定・実施などをあげています。

３．県カワウ保護管理検討会開催される

県環境森林部自然保護室ではこのほど、県西部地区を中心に被害が広がっているカワウ対策を図るため県カワウ保護管理検討会を開催し、環境省などを中心に今秋に設置予定の広域保護管理協議会と連動しながら、本格的な対策に乗り出し、漁業被害の軽減やカワウとの共存計画を進めていきます。

検討会は学識経験者や県東中西部の河川被害団体(狩野川漁協、安倍藁科川漁協、天竜川漁協)、自然保護団体、捕獲実施者など13名で構成され、今回の検討会では、県の担当者より、カワウは内陸部の淡水域などで育成する全長約80ｾﾝﾁのペリカン目ウ科の水鳥で、一時は激減しましたが、80年代から個体数が回復し、全国で約6万羽が生息します。県内でも平成16年1月の調査で約1万3千羽、18ヵ所のねぐらを確認するなど、県内のカワウの生息状況について報告されました。

また、カワウの食害はアユを中心に深刻化しており、県内水面漁連の調べでは、平成14年度の被害額は約5億円に上るなどの被害状況などについても報告されました。

４．水生生物による水質調査を実施する

本会では去る8月8日、瀬戸川下流域(焼津市保福島)、同上流域(藤枝市瀬戸ノ谷)において協同組合間提携推進協議会会員(JA中央会、JA経済連、県森林組合連合会、生協連など)(親子18名)が参加し県水産試験場花井主任研究員の指導を受け、平成16年度水産生物による水質調査を実施しました。

瀬戸川下流域では、ヒル・オイカワ・スナドジョウなどが採集され、川の石に付着するコケなどに独特の臭い(硫化水素)があり、生活排水などが流入しているためと考えられます。一方、上流域ではサワガニ・ヤマトトビゲラ・アカザ・ヘビトンボなど清流にしか生息しない生物が採集され、下流域から車で30分しか離れていない所で水生生物の生息状況が大きく変わっていました。今回の水質調査では、上流域においてナマズの仲間で絶滅危惧種になっている、アカザが採集され参加者一同豊かな自然を体験しました。

５．第５回シーフード料理コンクール作品募集のお知らせ

JF全漁連中央シーフードセンターでは、新鮮な感性と豊かなアイデアを生かした魚料理を発掘し、若い世代の食生活に結びつけるため、第5回シーフード料理コンクールを開催します。全国の学生・一般・プロなどを対象として、「好きになるお魚料理」をテーマとして偏食や魚嫌いをなくすために工夫した魚料理、今取り組んでいる料理などの作品を全国から募集していますのでお知らせします。

▽テーマ：「好きになるお魚料理」①主材料に魚介類を使い、副材料に海藻類か緑黄色野菜を使用し、浜の料理の部では、地元で取れる海産物を使用　②材料費は3,000円以内(4人分)　③調理時間は1時間以内　④下ごしらえはしないこと　⑤出品作品の食器などは各自持参する　▽応募締切：平成16年9月30日　▽部門及び応募資格：①プロの部＝料理の仕事に従事している方　②学生の部＝小中高校生、専門学校の生徒　③一般の部＝①②④以外の方　④浜の料理の部＝漁業関係者　▽応募・問合せ先：JF全漁連中央シーフードセンター　〒101-8503東京都千代田区内神田1-1-12　TEL03-3294-9671　FAX03-3294-3347　ＨＰアドレス＝http://www.3.jf-net.ne.jp/seafood/index.htm

６．諸会議・日程(8月24日(火)～9月6日(月))　－既報分省略－

8月26日(木)　県信漁連＝JFマリンバンク推進会議　(農林中央金庫静岡支店)
9月 1日(水)　県遊漁船業協会＝神子元島沖部会　(下田市漁協)
9月 6日(月)　県養鰻協会＝理事・幹事合同会議　(県水産会館)